

2025
SPRING

Vol. **38**

だいしん
ビジネス  てらす
地域のビジネスに光を照らす

だいしん ビジネスてらす レポート

2025年1月～3月期・実績

2025年4月～6月期・見通し



第21回
トップインタビュー

株式会社 キーパーション

■ ■ ■ 西濃地域のおすすめショップ紹介 ■ ■ ■

Café & handmade goods はなもり 花曇



LINE公式アカウント開設!
友だち追加はこちらから!
@ogakiseino-shinkin



代表取締役 木村 義文 さん

第21回 トップインタビュー

株式会社 キーポーション

〒501-6062 岐阜県揖斐郡池田町八幡621-7 <https://recruit.keyportion.com/>

創業 / 1948(昭和23)年7月1日 資本金 / 1,000万円 代表取締役 / 木村 義文 従業員数 / 正社員36名、パート400名(令和7年4月現在)
事業内容 / 食品の包装加工、乾燥剤の販売、パウムクーヘンの製造販売 拠点 / 本社第一 第二工場、揖斐工場、大垣第一 第二 第三 第四工場、八幡工場、巣南工場、
グループ / 有限会社ウィル、株式会社キヤサポート

お客様が作ったできたてのお菓子を、 当社で小分けし袋に詰めて全国配送しています。

【若山】 「袋詰め」を専門とする企業があると知り、驚きました。

【木村社長】 経済成長の過程で生まれたニッチな業種の一つです。お菓子やおつまみ等の仕上がり品をお客様から預かって、厳しい衛生管理のもとで計量・袋詰めして納品します。お取引先はお菓子メーカーをはじめコンビニ、大手スーパー、人気テーマパークなどです。定番のおやつからプライベートブランド、オフィシャルグッズまで、お菓子の種類もパッケージも多岐にわたります。

当社は1948(昭和23)年に食品用乾燥剤の製造販売で創業し、1991(平成3)年に食品の包装加工を始めました。かつては星の数ほど同業者がいましたが、現在は両手で数えるほどになりました。道を大きく分けたのは全国規模の需要に応える生産力と、食の安全を守る品質マネジメント。当社は早い段階で品質重視に舵を切り、有難いことに現在は常時約400種類の包装加工を行っています。

お菓子というのは形も味も、特性も多様です。新商品も次々登場するため、袋詰めも一筋縄ではいきません。例えば、ドライフルーツは微量の糖分が機械にくっつき計量不良を起こしますし、スナックやナッツは欠けやすく微細な粉がシールを邪魔します。包装加工を始めた頃はすべてが手探りだったため、何度も失敗を繰り返し多くの赤字を出しました。それでも臆せず様々なお菓子の包装を請け負って、試行錯誤を繰り返すうちに当社独自のノウハウを構築することができました。現在はこれまでの経験を活かし、商品企画などにも関わらせていただいています。主にコスト面での提案になりますが、工賃を抑えた分ロットを増設できるため、美味しいお菓子をより多くの方にお届けすることができます。

【若山】 競合他社がひしめく中で、意識して取り組んできたことはありますか。

【木村社長】 柔軟な対応です。当社はどんな仕事*1も「断らない」ことを経営方針としています。競争の激しい菓子業界では、ご依頼通りに人員を確保しラインを空けておいても、お客様のご都合で入荷の期日に材料が届かないことがあります。それでも納期厳守が原則ですから、その時点でお断りする企業もあるかと思います。しかし当社はどのように実現するかを「考える」。全工場の段取りを見直しで日程を入れ替えるなど、臨機応変に対応します。

経営方針を貫く時に、忘れてはならないことがあります。それは当社の経営理念である「1.安全、2.礼儀、3.満足、4.効率」です。1と3には、スタッフの、お客様の、消費者の…という3つの視点が入ります。日々の業務や事業展開で迷った時などは、スタッフも経営陣も皆この理念に立ち返り、1>2>3>4の優先順位で判断するようにしています。お客様や消費者の思いに誠意をもってお応えすることは大切ですが、それ以上に当社で働くスタッフの心と身体、人生を守り支えることは重要と考えています。

【若山】 パートさんの目線を大切にされているそうですね。

【木村社長】 当社は創業以来「パートさんファースト」です。パートさんと正社員の比率が9:1という逆ピラミッド型の組織なので、短時間でも効率よく安全・快適に働ける職場づくりを目指しています。

働きやすさのポイントは4つ。1つめは「通いやすい」立地です。工場は1か所に集めた方が効率よく稼働できるのですが、当社は9つの工場を揖斐・池田・大垣・巣南に設けています。これは地元の貴重な人材を取り合わないための選択。概ね30分の通勤圏を想定しています。2つめは「休みやすい」環境です。職場の雰囲気が良いと自然に助け合うものなので、元気のよい挨拶をコミュニケーション

の基本としています。3つめは「作業の簡素化」です。どんな仕事も精度や早さ、作業量などに個人差が出るものですが、当社は機械の改良や手順の改善など、ラインの仕組みを工夫することで能力の均一化を図っています。年齢国籍を問わず誰もが無理なくムダのない動きで高品質に仕上げるラインに。当社の工場は特別支援学校の企業実習などにも活用していただいています。4つめのポイントは「出入り歓迎」です。出産や介護等で退職される方は多いのですが、復職率も高いのが当社の特徴です。

【若山】 SBT^{※2}やJFS-Bなど様々な認定を受けられています。今後の豊富をお聞かせください。

【木村社長】 JFSは食品の安全管理の取り組みを認証する日本発の規格です。当社は、日本の大手企業が推奨するJFS-Bを全工場取得しています。現在は、世界最高峰の食品安全管理システムFSSCの取得に向けて準備中です。FSSCはISOをベースとする国際規格で、世界中どの国に行っても高い評価を得られます。まずは揖斐工場の取得が第一目標。そして2年後に建て替えを控えた

※2 科学的根拠に基づく温室効果ガス削減目標の設定を支援する団体

西濃地域の
おすすめ
ショップ紹介

はなむり
Café & handmade goods
花曇

おとぎ話の世界が広がる
小さなカフェを
誰かの居場所に

むっちりとした固めのプリン、風味豊かなハンドドリップコーヒー、ラテアート、カラフルなドリンクなど、みんなが笑顔になるようなメニューを取り揃えています。アンティークの家具、動物のオブジェ、静かに流れる心地よい時間…。「可愛い」を集めたお店には幸福感が満ちています。
※ご注文品の提供までに少しお時間をいただきます。

岐阜県不破郡垂井町府中 2510
営業時間 / ①10:00~12:30 (LO12:00)
②13:30~18:00 (LO17:30)
※日曜日は①のみ
定休日 / 水曜日 + 不定休

レトロプリンとにんじんのカップケーキ

2024年12月OPEN

おひとり様もくつろげます

岐阜県不破郡垂井町府中 2510
営業時間 / ①10:00~12:30 (LO12:00)
②13:30~18:00 (LO17:30)
※日曜日は①のみ
定休日 / 水曜日 + 不定休

※1 粉末・液体食品の包装加工を除く



- 調査期間 2025年1月～3月実績 2025年4月～6月見通し
- 調査時点 2025年3月
- 調査対象 西濃を中心とした地域の当金庫取引先事業所
- 調査方法 アンケート調査
前期（3ヶ月前）・前年同月（12ヶ月前）とを比較した質問を実施。
- 回答企業数 573（回答率 99.3%）
- 調査結果

回答企業の内訳						
製造業	卸売業	小売業	サービス業	建設業	不動産業	合計
195	38	105	92	121	22	573

対象企業の地域						
大垣市	瑞穂市	本巣市	海津市	養老郡		
242	19	74	15	39		
不破郡	安八郡	揖斐郡	本巣郡	その他	合計	
26	51	92	14	1	573	

	景気の状況と今後の見通し
全産業総合	▶概況 全産業総合の業況判断 DI は前期の 1.0 から今期 3.5 へと 2.5 ポイント良好化したものの、業種別では製造業、建設業は良好、サービス業は前期プラスからマイナスに悪化するなど業種間で明暗が分かれた。個別項目では生産・売上 DI が前期 4.4 から今回 2.4 へと悪化し、収益 DI も前期△ 5.5 から△ 6.2 へと悪化、資金繰り DI も△ 4.3 から△ 4.5 とやや悪化した。企業は引き続きコスト増加や価格転嫁の難しさから、新たに収益確保に向けた抜本的な業務改善や効率化が求められる状況となっている。一方、今後の見通しは全産業総合にて、生産・売上および収益面では改善を予測している。設備投資については機械の新・増設を中心に省力化や拡販投資への実施割合が前期同様低水準で推移している。
製造業	▶概況 製造業の業況判断 DI は前期 2.6 から今期 5.6 へと良好し、生産・売上 DI は 5.1 から 0 と大きく悪化し、収益 DI は△ 3.6 から△ 4.1 と小幅の悪化となった。資金繰り DI は△ 5.8 から△ 5.2 へ若干改善した。業種内では衣服その他繊維製品、金属製品等が悪化した一方、金属プレス・メッキ、その他製造業等で改善した。物価高騰による利益率低下や原材料費の高止まり、人材不足等の状況は続いており、改善は一部にとどまっている。設備投資は機械の新・増設を中心に前期並みの水準で推移している。
製造業	▶製造業コメント ・製造業では物価高騰による利益率の低下が顕著であり、材料費の高騰により利益を圧迫する状況が継続している。代表者自らが価格交渉を行っており、今期から改善傾向にあるとの声がある一方で、原材料価格の転嫁が追いつかない企業も多い。また、関税の動向が懸念されるなど国際情勢の変化に加え、デジタル化の進展により印刷需要が年々減少しているといった市場環境の変化も課題となっている。人材面でも技術者の不足や外国人実習生の確保が課題となっている。今後は工場の増設や 3D プリンターによる建築物の導入など、新技術を活用した生産性向上が期待される。
卸売業	▶概況 卸売業の業況判断 DI は前期 10.8 から今期 0.0 へと大幅に悪化した。生産・売上 DI は 24.3 から 5.3 と大きく低下し、収益 DI も 0 から△ 21.1 へと悪化が鮮明となった。資金繰り DI も△ 2.7 から△ 10.5 へ悪化が進んだ。業界ではインバウンド需要など下支え要因はあったが、経営上の問題点として「売上・受注の減少」が 60%を超えるなど売上の確保が継続的な課題となっている。設備投資について、今期実施の回答はなかったが、今後の実施を予定している事業所は複数見受けられた。
卸売業	▶卸売業コメント ・卸売業では物価高騰による利益率低下が大きな課題となっている。物価高騰は鋼材、機械設備、食料品、エネルギーなど幅広い分野に及んでおり、原材料価格の転嫁が追いつかない状況が続いている。一方でインバウンド需要の高まりを受け、インバウンド関連商品の取扱いに注力している企業もある。業界の構造的変化としては教材の DX 化が進み販売商品の減少傾向や少子高齢化や食の多様化などにより、米の消費量が年々減少しているなどの課題があげられる。さらに作業員不足やベテラン作業員の高齢化が業界全体で進み、次世代の人材確保が求められている。
小売業	▶概況 小売業の業況判断 DI は前期△ 11.4 から今期△ 1.9 へと改善傾向にある。生産・売上 DI は△ 5.7 から 7.6 へ顕著な改善がみられた。また、収益 DI も△ 23.8 から△ 6.7 へ、資金繰り DI は△ 11.1 から△ 10.1 へとそれぞれ改善している。商品仕入価格上昇による利益率悪化や大型競合店の台頭、消費者ニーズの変化、人口減少問題が課題であり、資金繰り環境そのものは依然厳しい。設備投資については店舗事務所関連を中心に低調な推移となっている。
小売業	▶小売業コメント ・小売業では仕入価格の上昇による収益圧迫が継続しており、物価上昇の影響によって個人消費の落ち込みが見られる。その中で呉服を身近に感じてもらえるようなイベント開催等を通じて顧客の確保を図っていく方針など、顧客維持のために各社が工夫を行っている。EV・ハイブリッド車の普及に伴う既存ガソリン車の需要減少など、市場変化への対応も課題となっている。大型のドラッグストアには商品種類や規模の面でかなわないといった大型競合店の進出による競争激化も顕著であり、人口減少の影響も懸念されている。また自動車整備士の不足など技術者の人材面での課題も多い。
サービス業	▶概況 （概況）サービス業の業況判断 DI は前期 4.3 から今期△ 2.2 へ悪化に転じた。生産・売上 DI は前期 3.3 から△ 6.5 へ、資金繰り DI は△ 7.6 から△ 12.0 へといずれも悪化している。材料・エネルギー価格高騰の経営への悪影響が継続し、人材不足も深刻化している。価格転嫁が進まず、さらに消費者行動の慎重化も相まって収益状況は悪化の状況。以上の状況の中、今期の設備投資において、省力化を目的とした投資が少数ではあるが見受けられた。
サービス業	▶サービス業コメント ・サービス業ではエネルギー価格および食材価格の高騰が経営に大きな影響を与えている状況が続いている。物価高騰を背景に、家計における節約志向が強まっているとのコメントが寄せられた。そのような中で次回利用割引や初回利用クーポン等を活用し、固定客や新規顧客の獲得に取り組む企業も見られる。顧客ニーズが多様化し、ヘアカットのみでなくスキンケアやヘッドスパの需要が増加しているなど、消費者ニーズの変化に対応した取り組みを行っている事業所が見受けられる。人材面では自動車整備士の不足や獣医師の不足などがあり、慢性的な人手不足の状態が続いている。また若年層の車離れや高齢化による車両離れなどにより、今後の先行きが不透明であるとの声も聞かれる。
建設業	▶概況 建設業の業況判断 DI は前期 6.6 から今期 10.7 へ良好した。生産・売上 DI は 9.9 から 9.1 と小幅悪化した、収益 DI は△ 4.1 から 0 へと資金繰り DI も△ 3.3 から 0 と改善した。建材価格や人件費の高騰は続いているが、顧客への価格転嫁・交渉も一定程度進展しつつある。一方で設備投資については案件数自体低調に推移している状況である。
建設業	▶建設業コメント ・建設業では、依然として材料価格の著しい上昇が続いているとのコメントが多く寄せられている。一方で、原材料高騰により利益率圧迫が避けられないが、取引先との価格交渉により改善傾向にある、元請け・下請け間で適正な請負価格の交渉が必要な時代になったとの意見も複数あった。業界全体として若手従業員の確保が困難な状態が続いているなど、人材面での課題が深刻化しており、従業員の待遇改善を行うためにも価格交渉が進んでいると考えられる。また官公庁からの受注は減少傾向にあり、公共工事閑散期の受注確保が課題となっている。ただし、3D プリンターを使った建物建築や事業再構築補助金の採択による新工場建設など、新技術の導入や前向きな設備投資も見られる。
不動産業	▶概況 不動産業の業況判断 DI は前期△ 13.0 から今期 0 へと大幅改善であった。生産・売上 DI は△ 13.0 から△ 4.5 に改善し、収益 DI ・資金繰り DI もそれぞれ△ 21.7 から△ 13.6 へ△ 13.0 から△ 9.1 へと改善となった。不動産売買市場は造成費や建設コストの上昇に伴って価格水準が高止まりしており、競争も激化している。経営上の問題点にて売上・受注の減少が 68.2%と全業種中最も大きく、価格水準の高止まりが需要に影響を与えている状況が窺える。
不動産業	▶不動産業コメント ・不動産業では周辺の土地・住宅価格の上昇が続いている。これは土地価格自体は変わっていないが、造成費用や人件費の上昇により結果的に価格が上昇しているためである。一方で少子高齢化の進展等により土地売買の動きが鈍化しているとの意見もあった。物件価格の上昇に伴い商品となる土地をめぐる同業者間の競争も激化している。また賃貸物件については、人口集中エリアでは安定的な需要があるものの、人口減少が進む地方エリアでは空室率の上昇が懸念されるといった地域二極化の傾向が見られる。

※ 図表 1 景況DI 値

業 種	業 況			生産・売上			収 益			資金繰り		
	前期 DI	今期 DI	今後の見通し	前期 DI	今期 DI	今後の見通し	前期 DI	今期 DI	今後の見通し	前期 DI	今期 DI	今後の見通し
全 産 業 総 合	1.0	3.5	3.1	4.4	2.4	5.4	▲ 5.5	▲ 6.2	▲ 3.3	▲ 4.3	▲ 4.5	▲ 8.1
製 造 業 総 合	2.6	5.6	4.1	5.1	0.0	3.6	▲ 3.6	▲ 4.1	0.5	▲ 5.8	▲ 5.2	▲ 6.7
食 料 品 製 造	0.0	0.0	5.3	15.0	▲ 5.3	0.0	10.0	▲ 10.5	▲ 5.3	5.6	0.0	▲ 5.6
衣服その他繊維製品	▲ 10.0	▲ 23.1	▲ 38.5	0.0	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 30.0	▲ 38.5	▲ 30.8	▲ 20.0	▲ 15.4	▲ 15.4
窯 業 ・ 土 石	60.0	0.0	▲ 28.6	40.0	28.6	▲ 14.3	20.0	0.0	▲ 28.6	▲ 20.0	0.0	▲ 14.3
金 属 製 品	9.5	▲ 14.3	▲ 9.5	19.0	▲ 19.0	▲ 4.8	9.5	▲ 4.8	▲ 4.8	4.8	▲ 14.3	▲ 14.3
金属プレス・メッキ	▲ 7.1	9.1	▲ 9.1	0.0	0.0	0.0	▲ 7.1	0.0	▲ 9.1	▲ 14.3	▲ 9.1	▲ 9.1
そ の 他 製 造 業	▲ 14.3	19.4	16.1	▲ 11.4	0.0	3.2	▲ 14.3	▲ 6.5	0.0	▲ 20.0	▲ 6.5	▲ 3.2
卸 売 業	10.8	0.0	▲ 2.6	24.3	5.3	7.9	0.0	▲ 21.1	▲ 5.3	▲ 2.7	▲ 10.5	▲ 7.9
小 売 業	▲ 11.4	▲ 1.9	2.9	▲ 5.7	7.6	8.6	▲ 23.8	▲ 6.7	▲ 4.8	▲ 11.1	▲ 10.1	▲ 5.1
サ ー ビ ス 業	4.3	▲ 2.2	2.2	3.3	▲ 6.5	0.0	▲ 10.9	▲ 7.6	▲ 6.5	▲ 7.6	▲ 12.0	▲ 10.9
建 設 業	6.6	10.7	5.8	9.9	9.1	9.9	▲ 4.1	0.0	▲ 0.8	▲ 3.3	0.0	2.5
不 動 産 業	▲ 13.0	0.0	▲ 4.5	▲ 13.0	▲ 4.5	0.0	▲ 21.7	▲ 13.6	▲ 9.1	▲ 13.0	▲ 9.1	0.0

今後の見通しは今期 DI 値と比較して DI 値がプラスの場合は ▲ マイナスは ▼ 0は ⇨ で表記。

※ 図表 2 設備投資の状況

業 種	設備投資			
	今期実施割合	投資の内訳 (最も多いもの)	設備の目的 (最も多いもの)	今後の実施予定
全産業総合	1.8%	機械の新・増設	合省力化拡販投資	1.8% ⇨
製造業総合	3.6%	機械の新・増設	合省力化拡販投資	3.1% ▼
卸 売 業	0.0%	—	—	2.6% ▲
小 売 業	1.0%	店舗事務所	拡販投資	1.0% ⇨
サービス業	1.1%	その他	合省力化	0.0% ▼
建設業	0.8%	土地機械の新・増設	—	1.7% ▲
不動産業	—	—	—	—

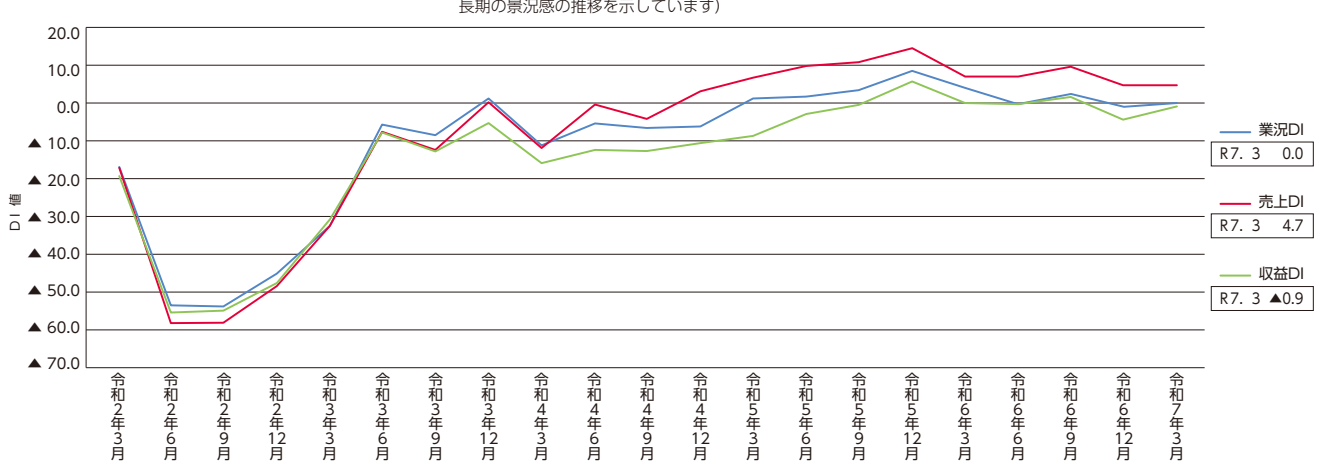
(今後の実施予定は今期実施割合と比較して増加する場合は ▲ 減少する場合は ▼ 変わらない場合は ⇨ で表記)

※ 図表 3 経営上の問題点

経営上の問題点							
売上・受注の減少		人手不足		競争の激化		その他	
今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較	今期割合	前期との比較
44.3%	▲	34.0%	▼	13.1%	▲	2.3%	▼
44.6%	▲	41.0%	▼	6.2%	▲	2.1%	▼
60.5%	▲	23.7%	▼	13.2%	▼	2.6%	▼
43.8%	▼	20.0%	▼	16.2%	▼	5.7%	▼
35.9%	⇨	40.2%	▼	19.6%	▲	2.2%	▼
41.3%	▲	33.9%	▼	13.2%	▲	0.0%	▼
68.2%	▲	31.8%	▲	31.8%	▲	0.0%	⇨

(前期との比較は前回調査と比較して増加している場合は ▲ 減少している場合は ▼ 変わらない場合は ⇨ で表記)

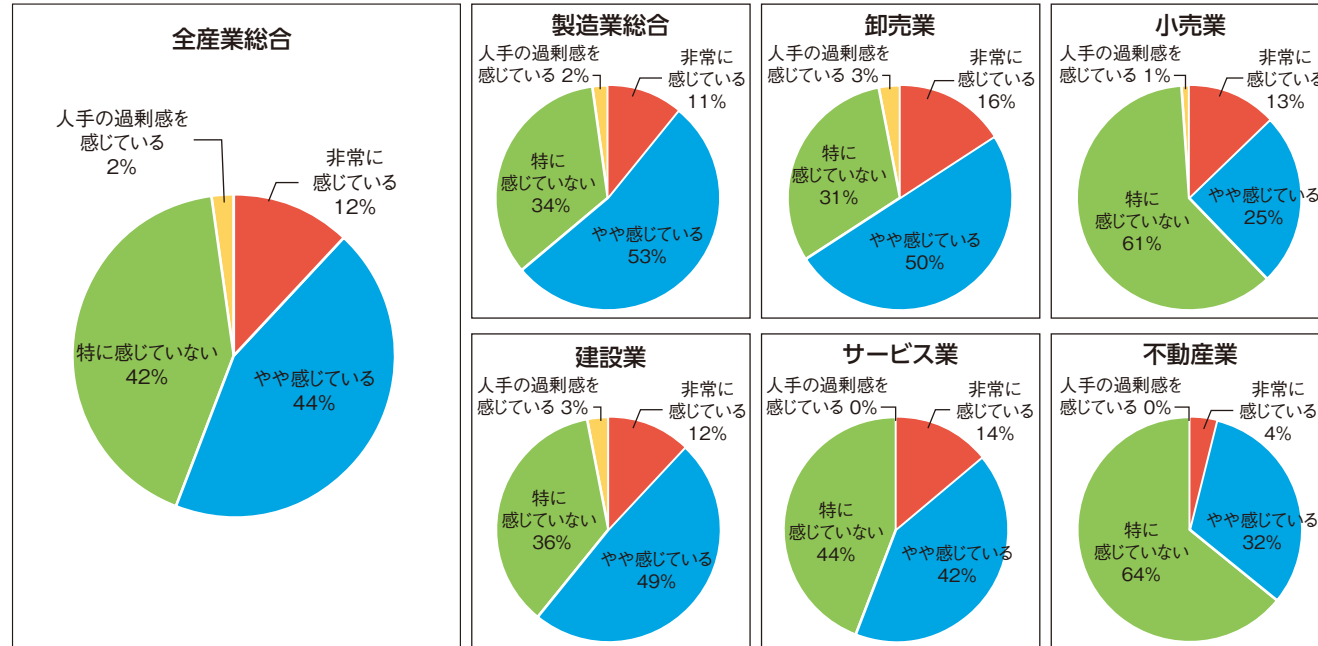
※ 図表 4 主要DI 値の推移





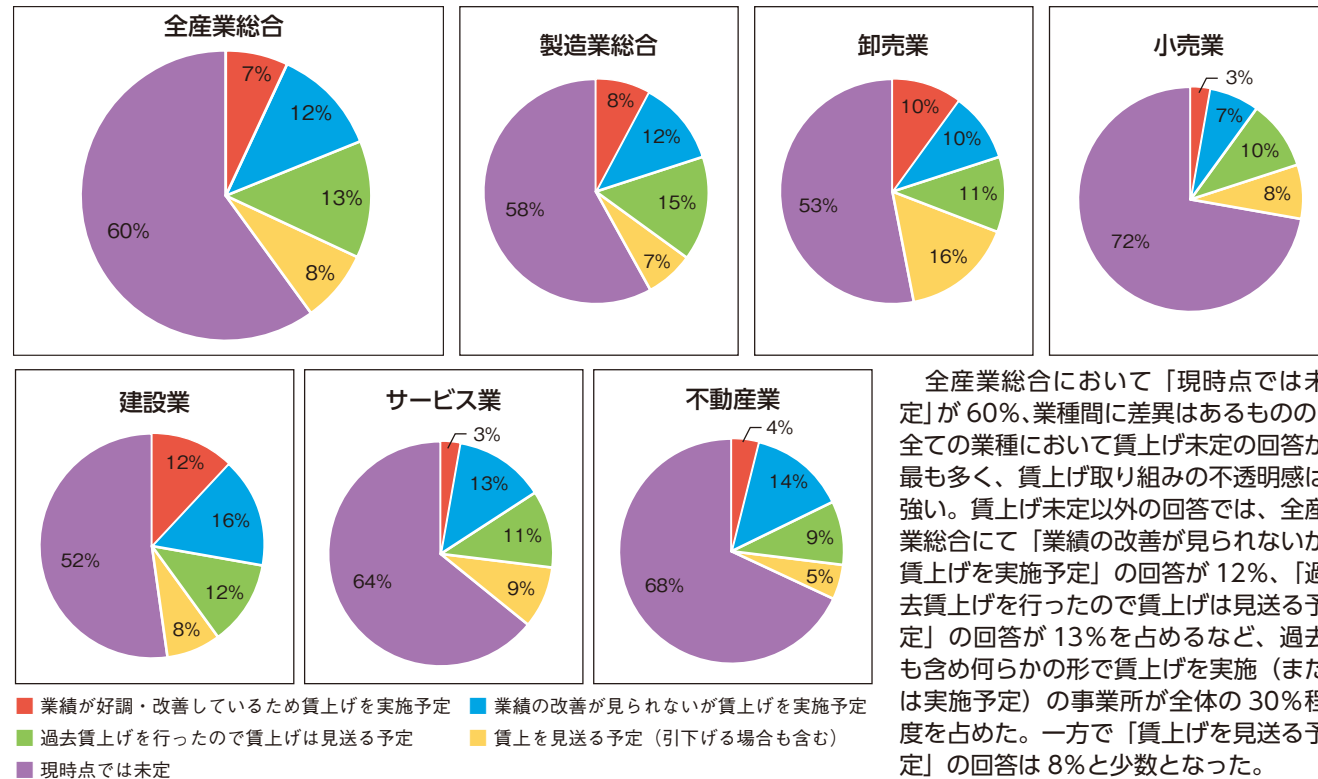
中小企業庁などの統計調査によると、コロナ禍からの脱却による需要回復を受けて中小企業の売上は全体的に回復傾向にあるものの、人手不足感は徐々に強まっている結果となっております。このように人手不足への対応が引き続き中小企業にとって深刻な課題である中、今回の「だいしんビジネスてらすレポート」では、人手不足解消に向けた取り組みについて従業員の賃上げを中心に特別調査を実施しました。

1. 現在、自社において人手不足を感じていますか？



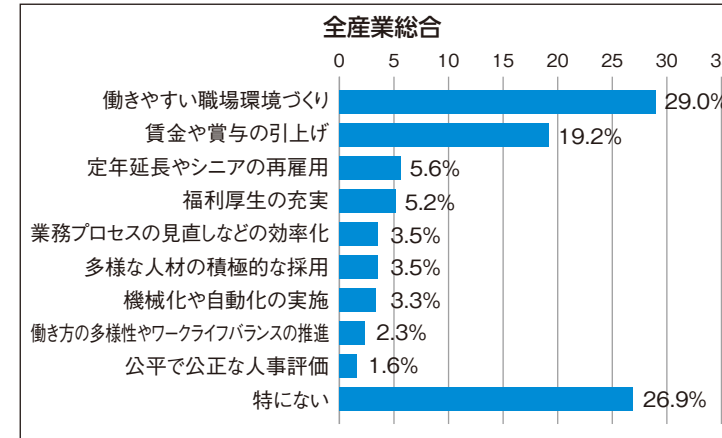
全産業総合では、人手不足を「非常に感じている」「やや感じている」の回答が合計で 56% を占め、全体の半数以上の事業所が人手不足を感じている結果となった。業種別にて人手不足感の差は認められ小売業、不動産業は「非常に感じている」「やや感じている」の合計が 40% を割り込んでいる一方で、製造業、卸売業、建設業は 60% を超えており、特に人手不足が深刻な業種であることが窺える。

2. 2025年に賃上げの実施を予定していますか？



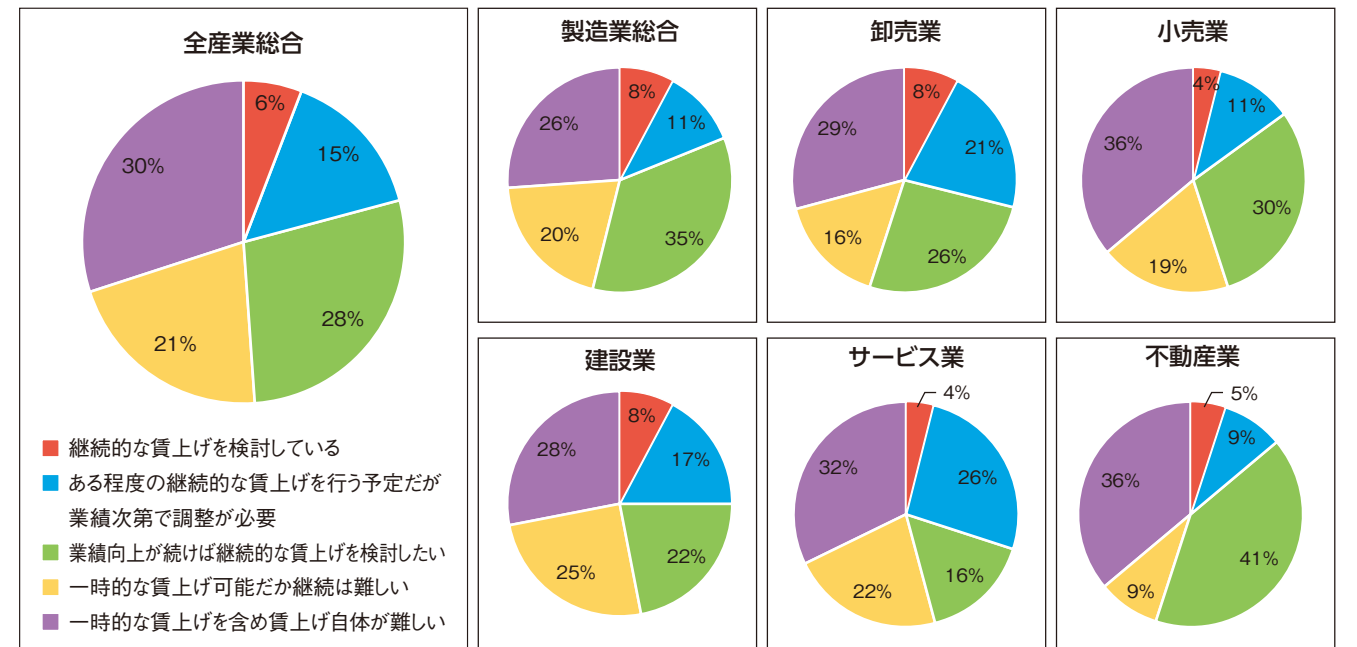
全産業総合において「現時点では未定」が 60%、業種間に差異はあるものの、全ての業種において賃上げ未定の回答が最も多く、賃上げ取り組みの不透明感は強い。賃上げ未定以外の回答では、全産業総合にて「業績の改善が見られないが賃上げを実施予定」の回答が 12%、「過去賃上げを行ったので賃上げは見送る予定」の回答が 13% を占めるなど、過去も含め何らかの形で賃上げを実施（または実施予定）の事業所が全体の 30% 程度を占めた。一方で「賃上げを見送る予定」の回答は 8% と少数となった。

3. 今後、人手不足対策として自社で検討している施策についてお答えください。（複数回答可）



人手不足対策の具体策としては、「働きやすい職場環境づくり」が 29.0% と最も多く、多くの事業所にて職場環境の改善に努力されている事が認められた。今回調査のテーマである賃上げについては、19.2% と 2 番目に多く、人材流出や新規雇用確保のため、賃上げを検討している企業が多いことが窺える。一方で大手企業が DX やデジタル化を進めている中で、「機械化や自動化の実施」については 3.3% とやや低調。また、「特になし」との回答が 26.9% であり、残り 7 割超の事業所で人手不足に対して何らかの取り組みを検討していることが分かった。

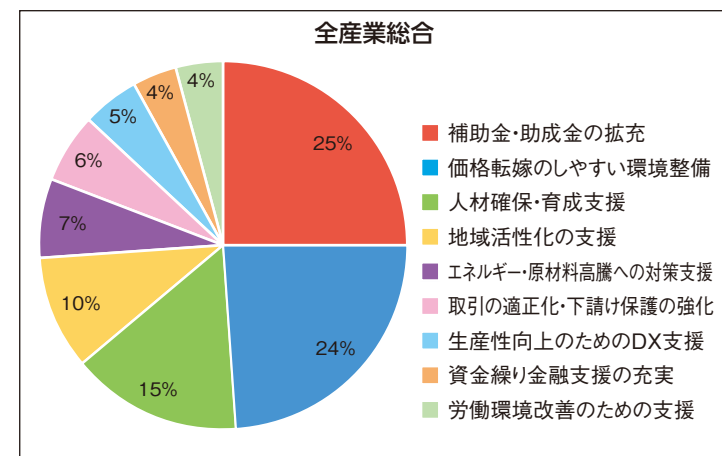
4. 来年以降の継続的な賃上げについて最も近い意見を選んでください



来年以降の継続的な賃上げの実施について調査したところ、全産業総合にて「一時的な賃上げ可能だが継続は難しい」「賃上げ自体が難しい」といった継続的な賃上げに否定的な回答が 50% を占めた。継続的な賃上げを検討する事業所においては、「業績向上が続けば継続的な賃上げを検討したい」との回答が 28% と 2 番目に多く、業績向上が続かない限り賃上げの継続は難しい事が窺える。

業種別では、サービス業、卸売業、建設業において「ある程度の継続的な賃上げを行う予定だが業績次第では調整が必要」の比率が他業種より高く、問 1 の結果での人手不足感が強い業種において、ある程度の継続的な賃上げの意欲がある事が窺える。

5. 賃上げを継続していくために必要だと考えている支援についてお答えください



賃上げを継続していくための施策として、「補助金・助成金」が 25% と最も多い結果となった。

また「価格転嫁のしやすい環境整備」が 24% 「取引の適正化・下請け保護の強化」が 6% を占め、他社との取引の中で価格交渉に苦慮し、賃上げを進める事が難しい状況である事が窺える。

そのほかには、「人材確保・育成支援」15% と、直接的な採用・育成面へのニーズも見受けられた。また、「生産性向上のための DX 支援」（5%）、「労働環境改善のための支援」（4%）など、職場環境の整備や働きやすさの向上を目的とした支援への要望もあった。以上から、中小企業が賃上げを継続していくためには、自社の状況に応じた多面的な支援が必要とされていることが分かった。



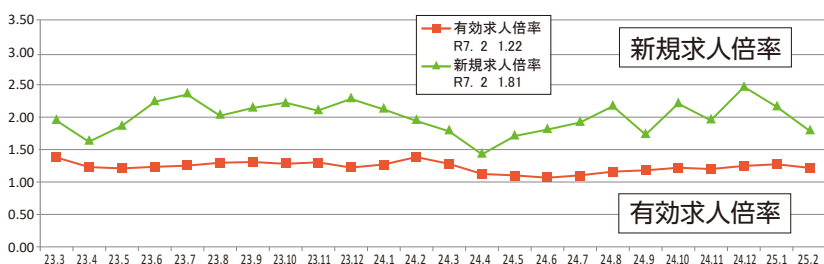
各種統計資料

西濃を中心とした地域の景況レポート

有効求人倍率・新規求人倍率の推移

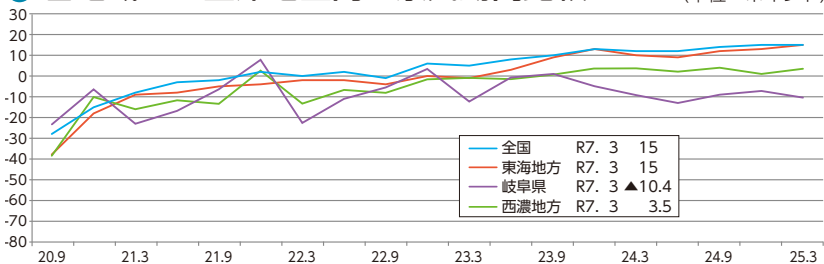
(対象地域：西濃地方=2市4郡=大垣市・海津市・不破郡・養老郡・安八郡・揖斐郡)

(単位：%)



各地域と当金庫地区内の景気動向比較

(単位：ポイント)



※直近調査データ対象企業数 回答率(%)

全国	8,971	99.0	岐阜県	167	86.2
東海地方	644	99.4	西濃地方	573	99.3

求人倍率

●新規求人倍率とは

新規求人数(当該月に新たに受け付けた求人数の合計)を新規求職者数(当該月に新たに受け付けた求職者数の合計)で割ったもの

●有効求人倍率とは

月間有効求人数(先月から繰り越した求人数に、当月新たに発生した求人数を合計したもの)を月間有効求職者数(先月から繰り越した求職者数に、当月新たに発生した求職者数を合計したもの)で割ったもの

景気動向比較

●日銀短観とは(DI調査)

正式名称を「全国企業短期経済観測調査」といいます。全国の企業動向を的確に把握し、金融政策の適切な運営に資することを目的に、全国の約1万社の企業を対象に(四半期毎)に実施されております。

全国のデータ 出典 / 「全国企業短期経済観測調査」(日本銀行) <https://www.boj.or.jp/statistics/tk/index.htm/> を加工して作成

東海地方のデータ 出典 / 「東海3県の短観」(日本銀行 名古屋支店) <https://www3.boj.or.jp/nagoya/toukei.html> を加工して作成

●法人企業景気予測調査とは(BSI調査)

法人企業景気予測調査は我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的として、資本金1千万円以上の法人企業を対象に実施している調査です。

出典 / 「法人企業景気予測調査」(東海財務局) <https://lfb.mof.go.jp/tokai/soumu/pagetk00400005.html> を加工して作成



お客様とお客をつなげたい

「つながり」は、だいしん経済クラブ・だいしん経営者懇話会を中心に、地元経営者の皆様のご縁を結ぶコーナーです。



株式会社NEXT
高橋 江美さん



岐阜梱包株式会社
堀部 友里さん



株式会社荒川急送
渡邊 勝也さん



ユニック岐阜販売株式会社
向井 公光生さん



株式会社大橋自動車鍍金塗装
大橋 宗生さん

ユニック岐阜販売株式会社

代表取締役

向井 公光生さん

(瑞穂市出身/47歳)

幅広い分野での効率的な資材・
機材運搬をサポートしています。

岐阜県瑞穂市十七条948番地
Tel.058-328-7118



株式会社大橋自動車鍍金塗装

代表取締役

大橋 宗生さん

(大垣市出身/50歳)

お客様の心と
ボディーのパートナー

岐阜県瑞穂市牛牧704番地1
Tel.058-216-624

バドミントンと歩む人生

高校生から始めたバドミントンを今は週1~2回続けています。高校時代には県大会で3位まで進み現在は社会人クラブチームに所属しています。仕事がどれほど忙しくても、コートに立ち、シャトルを追いかける瞬間は、余計なことを忘れられる貴重な時間です。またバドミントンを通して繋がりも増えました。幅広い年代の方とプレーすることにより、学ぶことも多くあります。現在は岐阜県内2部リーグへの昇格を目指し日々充実した毎日を送っています。

未来へつなぐ十万石まつり

十万石まつりは大垣藩主を祀る常葉神社の例祭を起源としています。5年前より先輩の紹介で私も実行委員を担っています。準備は多く大変ですが、当日の朝、みこしを担ぐ方々が常盤神社に集まる光景は圧巻! 今後も、より多くの方にまつりの素晴らしさを伝えるとともに、誰もが参加しやすい環境を整えて、伝統ある十万石まつりを未来へつなげていきたいと考えています。

2025
SPRING
Vol. 38

だいしん ビジネスでらす レポート

- 調査期 2025年1月~3月期
- 発行所 大垣西濃信用金庫 事業成長推進部
〒503-0828 大垣市恵比寿町1丁目1番地
TEL(0584)75-6148
- 発行日 2025年4月21日

DI(Diffusion Index)について

DIとは、増加企業割合から減少企業割合を引いた数値で、どちらの力が強いかを比べて、景気がどの方向に向きつつあるかを見る方法である。

(例)前期に比べて売上が増加した企業割合30%、変わらなかった企業割合50%、減少した企業割合20%の場合、DIは30%-20%=10%となる。

本レポートの分析について

本レポートの全業種総合及び各業種の分析は、前期(3ヶ月前)と比較した回答結果で実施しました。



だいしん
ケータイサイトは
こちらから

